

# 平成 29 年度 学校自己評価シート ( 私立 霞ヶ関高等学校 )

|        |   |
|--------|---|
| 目指す学校像 | ここに来れば学びがあり、成長があり、安らぎがある。そんな生徒たちのホームタウンであり続けたい。 |
|--------|---|

|      |   |
|------|---|
| 重点目標 | 1 生徒各自のペースでより良い学習の伸長と人間形成を図る。<br>2 学校内の美化意識と他人への思いやりの心を養う。<br>3 自己の進路実現に向けた早期対応・対策の実行 |
|------|---|

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

| 学 校 自 己 評 価 |  |      |   |   | 年 度 評 価 ( 3 月 現 在 )  |     |  |
|-------------|--|------|---|---|--|-----|--|
| 年 度 目 標     |  |      |   |   | 年 度 評 価 ( 3 月 現 在 )  |     |  |
| 番号          | 現状と課題  | 評価項目 | 具体的方策   | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況  | 達成度 | 次年度への課題と改善策  |
| 1           | <p>進路を念頭に、目標達成に向けて生徒自ら積極的に行動するように促すことができるか。</p> <p>生徒一人ひとりの能力に応じて、弱点克服および学習意欲をいかに引き出し、学ぶ楽しさを伝えることが出来るか。</p> <p>LHRの重要性を生徒に理解させ、学習だけではなく、就職や道徳教育などの充実を図れるか。</p> | 教務   | <p>学習状況通知をこまめに発行するだけではなく、スクーリングにおいてもレポート、出席状況を確認する。</p> <p>生徒の能力に応じて、基礎学力の定着と生徒のニーズに合った補講を用意する。</p> <p>レポート学習日とLHRを同じ日に設け、LHRの出席規定数を設ける。</p>          | <p>1科目でも多い単位修得や一人でも多く卒業するか。</p> <p>補講等を通じて、苦手科目に対する克服と積極的にスクーリングに出席するだけではなく、学ぶ姿勢に変化があったか。</p> <p>LHRの出席の記録により、レポートの提出状況の変化や、特に進路活動などの行事への参加率はどうか。</p> | <p>レポート等を積極的に授業中に扱うことで基礎の定着を図り、単位修得に結びつけた。</p> <p>普段のスクーリングに毎日楽しく登校する生徒が目立つようになった。</p> <p>学習状況通知にLHRの出席状況を載せることにより、LHRや行事等の出席・参加率が大幅に上がった。</p> | B   | <p>レポート提出期限切れや出席数不足などの初歩的なミスをどれだけなくし、単位修得につなげることができるか。</p> <p>最低限の学習による単位修得だけを目標にするのではなく、スクーリング等を通じて自ら学ぶ姿勢と学ぶ楽しさを身につけ、人間としての成長を促す学習環境を作れるか。</p>  |
| 2           | <p>挨拶や積極的な行動が進路などにも応用出来るように指導する。</p> <p>学校生活における美化意識と相手を思いやる心を養い、自ら考えて行動するよう指導をする。</p>   | 生徒指導 | <p>立哨指導などにより、教員が積極的に声掛けを行い、生徒が自ら挨拶できる環境を整える。ホームルーム等で、ごみの分別や公共物の扱いを徹底指導し、出来ているか巡回して確認する。</p>   | <p>職員室への入室の仕方や、言葉遣いの指導を全教職員が共通理解する。普段から緊張感を持って指導することができたか。</p> <p>廊下や階段にゴミが落ちていないか。積極的な声掛けに伴い、生徒を『君、さん』を付けて呼ぶことを徹底する。</p>                             | <p>入室指導や、ホームルームでの徹底指導により、生徒の態度等様々な点で学校全体の意識が変わったと感ずることが出来る。</p>  | A   | <p>現状維持をしつつ、進路などにも応用ができるよう指導する。</p> <p>学校生活における美化意識と、相手を思いやる心を養い、自ら考えて行動するよう指導をする。</p> <p>生徒への『君、さん』付けの徹底をはかり、生徒との更なる信頼関係を築く。</p>  |
| 3           | <p>「進学」他の高校の様子、世の中の現状、将来展望、または大学や専門学校の情報をより早く、より多くの場所や機会に生徒に話が出来るようにすることで、早めの進路決定を確実にする。</p> <p>「就職」就職補講を通し、進路指導部と担任と生徒が密に、より良い就職先が決定できるように一人ひとりを手厚く指導する。</p>  | 進路指導 | <p>「上級学校体験講座」を開設することにより、早い段階から上級学校に目を向けさせる。また興味を持たせることにより進学や就職に早い段階から取り組ませることを行いたい。</p> <p>就職補講を数回にわたり開講し、気持ちの面から、また就職活動について、面接の仕方に至るまでのすべてを指導する。</p> | <p>進路指導についての評価については、卒業に対しての進学率と就職率を見れば一目である。またできる限り未定者を出さなかったかも大切な指標となる。</p> <p>それから1,2年次の生徒は、オープンキャンパスに足を運んでいるかを担任が把握することにより評価をする。</p>               | <p>卒業生に対する進学就職率が昨年よりも大幅に高まった。生徒自身の進学就職に対する気持ちや勢いが芽生えたと感ずることができた。</p> <p>またオープンキャンパスへ行く生徒も大幅に増えたことも確認できた。</p>                                   | A   | <p>どの分掌も同じであるが、特に進路指導部については生徒自身が未知の領域に感じている部分が多い。</p> <p>1年間だけの実績を伸ばすのではなく、毎年平均した良い進路実績が出せる様に3年だけに限らず1・2年に対しても進路活動を意識づけていくことが重要である。</p> <p>総合学習やLHRの時間を利用して、進学や就職にむけた活動を今よりも活発にしていきたい。</p> |